

Book Review



災害と身元確認 ICT 時代の歯科情報による個人識別

江澤庸博・青木孝文・柏崎 潤・小菅栄子 著



Reviewer

柳川忠廣 Tadahiro Yanagawa
(静岡県歯科医師会会長)

A4 判, 174 頁
オールカラー
定価 (本体 4,800 円+税)
医歯薬出版刊



すでに 6 年近くが経過した東日本大震災。歯科所見による身元確認作業は、被災県の県警からの要請を受けた県歯科医師会が中心となり、日本歯科医師会と全国の歯科医師会が連携して対応した。当初の約 5 カ月間に、延べ約 2,600 名の歯科医師が現地に出勤し、9,000 体以上のご遺体の歯科所見を採取して作業にあたったと聞く。宮城県では最も数が多かった時期には、1 日 1,000 体ものご遺体があがり、石巻市の検案所では連日数百体の歯科所見の採取が行われた。

思い起こせば、「今日はどうでしたか?」『何とかかなりましたが、〇〇が足りません。まだ相当寒いので、年配の先生よりも若い歯科医師をお願いします』『わかりました、調整してみます』『今日は、明日から作業にあたる〇〇県の先生方へのレクチャーをやりました。私はこれから報告書を書いてから、車にガソリンを入れるためにガソリンスタンドの列に並びます』これが当時毎日のように繰り返された、宮城県歯科医師会身元確認班の江澤庸博班長（東京都・吉祥寺南歯科）と私の会話であった。

また 4 月に入ってから仙台に伺い、初めて江澤班長と柏崎 潤副班長（宮

城県・旭ヶ丘ジュン歯科）にお会いした際に驚かされたのは、過去の歴史にないほどの想像を絶する作業をされている最中で、お二人が特段の気負いもなく、自分たちがあっている業務の問題点と中長期化する状況を、冷静かつ俯瞰的に捉えている姿であった。まさに本書の由縁がそこにあったように思う。

また照合解析ソフトを用いたシステムを現場で開発しながら運用して大きな成果を上げ、現在は若くして東北大学の副学長にまでなられた情報科学の専門家である青木孝文氏（東北大学）と、厳しい状況下できわめて有効なポータブル X 線撮影の導入に大きく貢献された小菅栄子氏（群馬県・篠原歯科医院）との出会いは、決して忘れることができない。

一般には、災害対策においては何よりも経験則が優先されるし、震災の体験を風化させないとの観点はきわめて重要である。ただし本書では、彼らの経験が綿々と綴られていることは決してない。何よりも、災害現場での経験がない日常臨床に携わっている歯科医師たちが、本書を一読すれば身元確認作業をより身近に捉えられるよう、それぞれの課題がクリアできるよう整理

され、もっと言えば歯科所見による個人識別が実務的に解明されている。しかも科学的に、さらに組織論にまで及ぶ。

もう一つ興味深いのは、作業システムと情報技術の活用についての内容であり、これだけわかりやすく丁寧に記載された書がほかにあるだろうか。生前の元データが見つからず、大いに難儀したからであろう。

作業システムの統一については、日本歯科医師会と警察庁の間で促され、たとえばデンタルチャートは全国の約 3/4 の道府県ですでに日本歯科医師会が作成したチャートが採用されている。また、いま厚生労働省と日本歯科医師会が中心となり歯科情報の標準化が進んでいるが、これについても宮城県における経験が基になったこと、また本書の 4 著者がその先駆けであったことがよくわかる。さらに現在では、国際規格を定める ISO（国際標準化機構）でも、法歯科分野の用語の統一や互換性について議論され、ここにも東日本大震災の際に貢献した立場から、東北大学が参画し世界とつながっている。

大規模災害への備えとしても、一読必見の書である。